

日本現代文學全集 57

菊池 寛
久米正雄 集

講談社

日本現代文學全集

57

菊池 寛・久米正雄集

編 集
伊 藤 整
龜 井 勝 一 郎
中 村 光 夫
平 野 謙
山 本 健 吉



初版 第1刷
昭和42年2月19日
増補改訂版 第1刷
昭和55年5月26日

¥2700

著 者 菊 池 寛
久 米 正 雄

發 行 者 野 間 省 一

發 行 所 株式會社 講 談 社

東京都文京區音羽2-12-21

郵 便 番 號 112

電話東京03 (945) 1111(大代表)

振 替 東 京 8-3930

裝 幀 蟹 江 征 治

印 刷 豐國印刷株式會社
製 本 株式會社黒岩大光堂

落丁本・亂丁本はお取りかえいたします

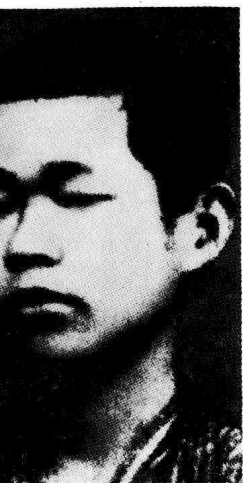
Printed in Japan

0395-106570-2253 (1)

(文1)

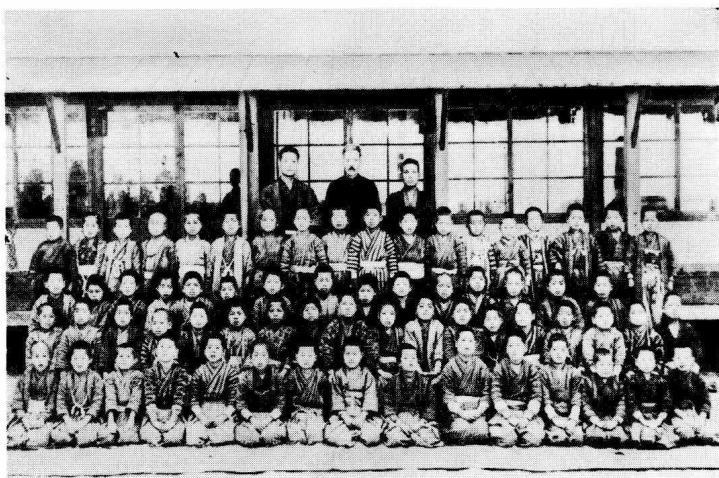


昭和十年頃 菊池寛



← 中學時代

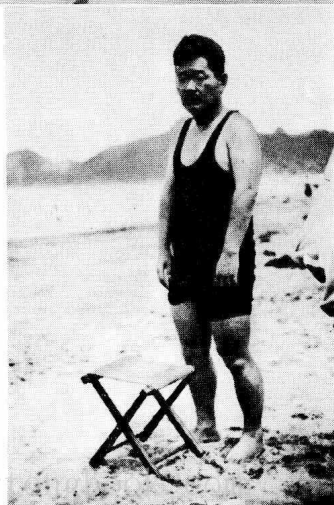
→ 明治三十一年 小學校四年卒業の時 三列
左から七人目 寛



→ 大正十一年 小石川富坂の家にて 右から
寛 長女 瑠美子 妻 包子
← 大正十二、三年頃 城戸四郎（左）と



→ 昭和八年夏 房州岩井にて
← 昭和十年頃 雜司ヶ谷 金山の家にて 右から
次女 ナナ子 長男 英樹 寛 長女 瑠美子





←昭和十一年二月十三日 別府にて
右から二人おいて
久米正雄 二人お
いて 寛 一人お
いて 吉川英治

↓昭和十三年 中國視
察旅行中 前列右か
ら 吉川英治 吉屋
信子 北村小松 濱
本浩 小島政二郎
寛 佐藤春夫

↓昭和十四年十一月二
十一日 著作權保護
同盟結成式 平河町
の文藝家協會事務所
にて 右から 寛
岡田三郎 大下宇陀
兒 濱野辯護士 今



←昭和十五年 中國旅行の際



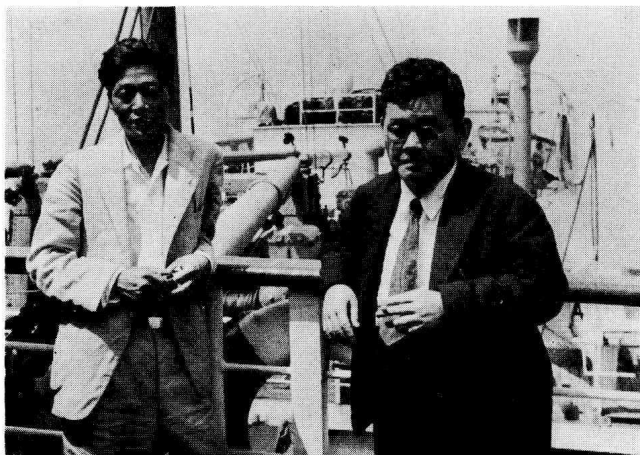
←昭和十五年 中國にて
から二人目 寛

→昭和十三年頃 雜司ヶ谷の家にて 吉屋信子と





→昭和十五年夏 小林秀雄(左)と
←昭和十七年頃 銀座にて



→昭和十八年三月三十日 大映社長
時代 東京撮影所にて 右から
永田雅一 吉岡重三郎 寛
←昭和二十二年三月 大映社長辭任
パーティーにて



↑昭和二十二年頃 府
競馬場にて 右から
舟橋聖一 吉川英治
寛
←昭和二十二年 雑司
谷の家にて 孫 夏
(右) 貴美(左)と



昭和二十六年 鎌倉にて 久米正雄



↑明治四十五年秋 萬
朝報主催 學生徒步
旅行選手として参加
の際



↑明治三十四年四月 前
列右から 正雄 兄
哲夫



↑大正十二年十一月十七日
結婚式の日の記念撮影
正雄 妻 艶子 帝國ホ
テルにて



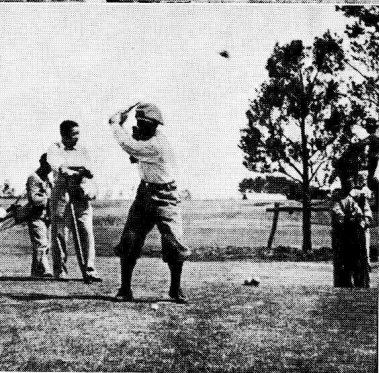
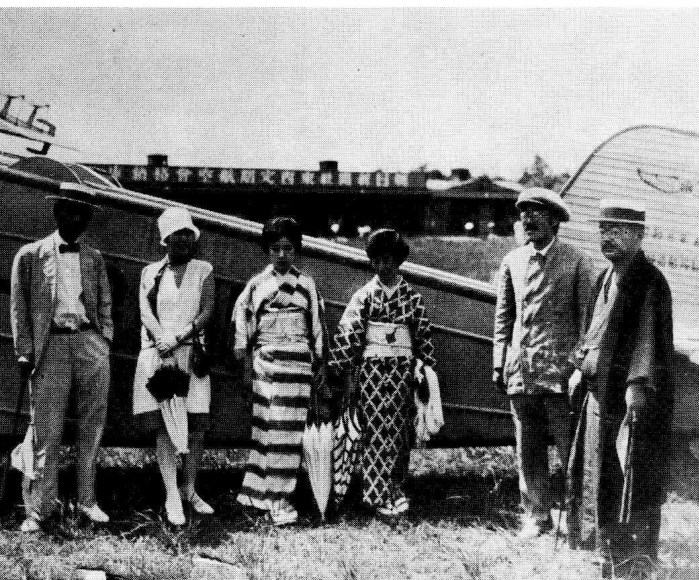
←大正四、五年
國大學在學中
東京帝



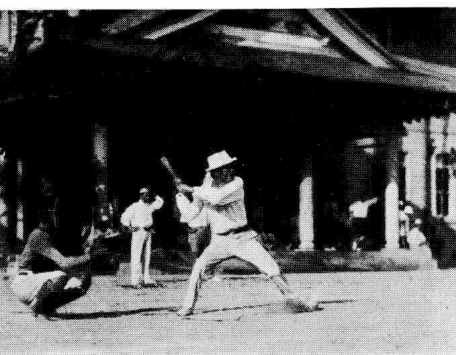
→大正八、九年頃 前列右
から一人おいて 近松秋
江 長田秀雄 里見淳
中列右から 中村武羅夫
二人おいて 徳田秋聲
一人おいて 田中純 正
雄 後列 谷崎潤一郎

↓大正十三年暮 右から
池田義信 徳田秋聲
正雄

←昭和三年八月 朝日新
聞社の旅客機試乗後の
記念撮影 立川飛行場
にて 右から 菊池寛
正雄 妻 艶子 一人
おいて ささき・ふさ
佐佐木茂索



←昭和四年 欧米旅
行の際 ニューヨ
ークにて 久米夫
妻



↑昭和十一年頃
右から席順に
野間清治 大佛
次郎 野間恒
正雄
←昭和十二年頃
鎌倉師範学校校
庭にて



→昭和十二年 英國ジョージ六世戴冠式の時
ロンドンにて

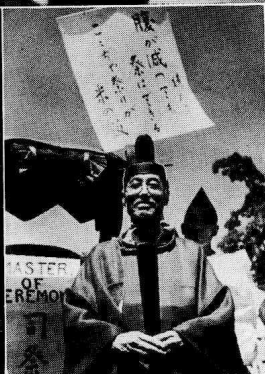
←昭和十三年九月十三日 上海飛行場にて
右から 川口松太郎 佐藤惣之助 片岡鐵
兵 一人おいて 正雄 深田久彌 一人お
いて 林芙美子



→昭和十六年頃 右から席順に
中野實 益田義信 宮田重雄 今日出海
佐佐木茂索 吉川英治 正雄 市丸 里見
淳 川口松太郎 徳田秋聲

↓昭和十八年頃
鎌倉 瑞泉寺に
て 右から 林
芙美子 久保田
万太郎 正雄
横山隆一

←昭和二十一年八
月 鎌倉カーニ
バルの時



←昭和二十六年
頃 鎌倉にて
永井龍男(右)
と



菊池 寛集 目次

巻頭寫眞

筆 蹟

身投げ救助業……………	七
恩を返す話……………	二
大島が出来る話……………	七
死者を嗤ふ……………	三
無名作家の日記……………	六
忠直卿行狀記……………	四〇
恩讐の彼方に……………	五
葬式に行かぬ譯……………	七

出世……………	八
---------	---

蘭學事始……………	七
-----------	---

入れ札……………	九
----------	---

島原心中……………	一五
-----------	----

屋上の狂人……………	二六
------------	----

父歸る……………	二三
----------	----

藤十郎の戀……………	二六
------------	----

新今昔物語 抄

六宮姫君……………	三七
-----------	----

心形問答……………	四三
-----------	----

龍……………	四八
--------	----

半自敘傳……………	一三
-----------	----

わが文藝陣 抄

小説家たらんとする青年に與ふ……………	一四
漱石先生と我等……………	一六
晩年の上田敏博士……………	一七
暗黒時代……………	一九
芥川のこと……………	一九
志賀直哉氏の作品……………	二〇
藝術と天分……………	二四
ある批評の立場……………	二七
藝術家と後世……………	二九
文藝作品の内容的價值……………	三二
再論『文藝作品の内容的價值』……………	三五

話の屑籠 抄……………	三三
-------------	----

作品解説……………	伊藤 整	四一五
菊池寛入門……………	淺見 淵	四二二
年 譜……………		四二九
参考文献……………		四四五

久米正雄集 目次

卷頭寫眞

筆 蹟

受驗生の手記……………三七

虎……………三七

小鳥籠……………三三

風と月と……………二七

地藏教由來……………三六

三浦製絲場主……………三〇

私小説と心境小説……………四六

純文學餘技說……………四二

作品解説……………伊藤 整 四一五

久米正雄入門……………淺見 淵 四三

年 譜……………四六

參考文獻……………四六

菊池
寛
集

閉門即是
深山讀書
隨處淨土
菊池寬